

## はじめに

三番瀬の自然環境の再生に当たっては、その過程において県民の積極的な参加が確保される必要があります。本書は、県民参加のうち、三番瀬の自然環境のモニタリングに関して、その考え方と具体的なマニュアルを示したものです。

モニタリングは、三番瀬の自然の状況を把握して、どのような変化が生じているのかを知るために行います。そして、その変化が継続された場合の、未来の三番瀬の姿を予測します。その結果が、三番瀬の自然に好ましくない場合には、対策を考える必要があります。モニタリングは、通常、このような一連の作業のために実施する調査です。そのために、県では三番瀬の全域を対象として、深浅測量、水質調査、底質調査、底生生物・魚類・鳥類等の生物調査など様々な調査を実施してきました。

これらの調査は専門的で、多くの労力を必要とし、多額の費用もかかり、一般県民が行うには大きな負担を強いることとなります。しかし、モニタリングには様々な切り口があり、手法も様々なはずです。その中には、そこを生活圏とする人だからこぞできるモニタリングや、県や研究機関との協働により、より精度を上げられるモニタリングがあるはずです。平成17年度から始まった三番瀬自然環境合同調査もその一つです。

そこで、本書は、モニタリングについて県民参加による様々なメニューを示すことによって、モニタリングへの参加者の幅を広げていくことを期待して作成しました。また、モニタリング調査について一定の水準を確保し、既存資料や様々なモニタリングデータとの比較検討ができるようにすることも想定しています。

さらに、実際にモニタリングを実施する場合だけでなく、モニタリング手法や結果の評価を行う際に、本書がその検討の一助となれば幸いです。

本書の構成は、「第1章 三番瀬自然環境モニタリング」で三番瀬における自然環境モニタリングの必要性和、市民がモニタリングを行うことの意義について記載しました。

「第2章 モニタリングの流れと留意点」では、モニタリングの実施に当たって、具体的にどのように計画を立てていく必要があるのか、その項目を示して解説を行いました。また、準備や当日現場での注意点等をできるだけ細かく記

載しました。

「第3章 モニタリング調査」では、一般県民が行うことができる調査項目として、底生生物、付着生物、プランクトン、魚類、鳥類、海藻・海草類、海浜植物、水質、底質を扱いました。それぞれについて、調査用具と調査方法を示しました。

「第4章 もっと知りたい時」では、県庁等の関係機関の紹介と、参考となる文献の記載を行いました。

「第5章 三番瀬の自然」では、モニタリング対象の三番瀬の自然について、その特徴をごく簡単に解説しました。また、鳥類、魚類、底生生物について、三番瀬で見られる主要な種の解説を示しました。それぞれ、写真、分布、形態、生態に加え、これまでの県の調査で明らかにされた三番瀬における生息状況も示しました。

本書に収録した調査方法は、必ずしも確立されたものばかりではありません。このようなことができるのではないかと、という提案の部分もあります。それは、調査方法だけでなく、市民調査のあり方、スタイルについても言えることです。したがって、中には市民調査として疑問符をもって見られるものもあるかもしれません。本書とは違った見方や方法もあると思います。それらについては、今後、現場からのご意見を基に改良していきたいと考えています。本書が市民モニタリングの検討の際に少しでも役に立てば幸いです。

本書の作成に当たっては、専門家の方々から貴重な助言をいただきました。心から感謝申し上げます。ただ、当方の力不足のため、助言内容を十分に反映させることができなかつたところがあります。今後に生かせればと考えております。